

「令和2年度京都市景観市民会議」のまとめ

「令和2年度京都市市民会議」は、「地域ビジョンにもとづく景観まちづくり」をテーマに、フィールドワーク、ワークショップ、オンラインディスカッションを2日間の日程で開催しました。

(1) 1日目【セッション1】

景観まちづくりの取組を実施している京都市内4地域（桂坂、修徳学区、先斗町、三条通）において、地域の方に解説・案内いただきながら、フィールドワーク及び参加型ワークショップを行いました。

	地 域	日 時
A	桂坂「みどりとゆとりの町なみ」	令和2年12月12日（土） 午後1時30分～午後4時
B	修徳学区「伝統的元学区のコミュニティ」	令和2年12月 6日（日） 午後1時30分～午後4時
C	先斗町「無電柱化が進む伝統的花街」	令和2年12月13日（日） 午前9時30分～正午
D	三条通「近代以降の多様性あふれる通り」	令和2年12月 6日（日） 午前9時30分～正午

(2) 2日目【セッション2】

1日目【セッション1】のフィールドワーク・ワークショップの参加者、コーディネーター、専門家でオンラインによる意見交換を行いました。

ア 開催日時

令和3年1月30日（土）午後2時～午後5時

イ 開催場所

オンライン

ウ テーマ

地域ビジョンにもとづく景観まちづくり

エ プログラム（予定）

○第1部 フィールドワーク及びワークショップに関する発表

セッション1のフィールドワークやワークショップについて各グループ代表者から発表

○第2部 オンラインディスカッション

地域ビジョンにもとづく景観まちづくりに関する意見交換

○第3部 議論のまとめ

コーディネーターによる議論のまとめ

オ 参加者（敬称略）

区 分	氏 名	所属等	
コーディネーター (2名)	門内 輝行	大阪芸術大学教授, 京都大学名誉教授	
	大島 祥子	一級建築士事務所スーク創生事務所代表	
京都市景観 デザイン会議 (2名)	西田 教子	一般社団法人 京都府建築士会	
	道家 駿太郎	公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 京都地域会	
フィールドワーク及び ワークショップの 発表者 (4名)	巽 容子	桂坂	
	佐野 美幸	修徳学区	
	畝 博之	先斗町	
	松本 一平	三条通	
地域を御案内いただいた方々 (5名)	長坂 生人	桂坂景観まちづくり協議会	
	荒川 晃嗣	修徳景観づくり協議会	
	神戸 啓	先斗町まちづくり協議会	
	森本 浩行	京の三条まちづくり協議会	
	西村 祐一	京の三条まちづくり協議会	
セッション1の参加者 (発表者除く) (12名)	川崎 誠登	衣笠 恭平	熊谷 昌美
	鞍元 玉緒	袖岡 信明 (セッション1のみ参加)	田中 和彦
	田中 椋	谷川 陸	田村 京子 (セッション1のみ参加)
	辻野 隆雄	水出 喜穂	宮本 和則
	森 英貴	吉野 和泰	

傍聴者：7名

【テーマ】 地域ビジョンにもとづく景観まちづくり

すでに地域ビジョンを持ち、景観まちづくりに取り組んでいる地域景観づくり協議会地域の中から、エリア特性の異なる4地域をピックアップ。市民公募委員が5名程度ずつ、それぞれ希望の地域でお話を聞き、実際にフィールドワークすることを通して、議論した。

各地域当日は、

- ①地域の方から、地域の概要・取り組みの説明（20分程度）
- ②地域の方に解説・案内いただきながら、地域内フィールドワーク（60分程度）
- ③ワークショップ（60分程度）

という形で進行。WSでは、以下の流れに沿って議論。

- ・FWして、率直にどう感じたか？
- ・地域の目指しているもの、そのための工夫って？
- ・自分の地域で景観まちづくりに取り組むとしたら、どのようなビジョンが描けるのだろうか？
- ・地域みんながビジョンを共有するために地域に必要なこと、ひと、モノって何だろう？
- ・どのような仕組み、支援があれば取り組みやすいか？



A. 桂坂（2020.12.12） 地域の案内：桂坂景観まちづくり協議会 長坂さん、簗島さん

桂坂景観まちづくり協議会の長坂事務局長より「桂坂は自治会が16あり、20年強かかって順次開発されたため、住人の年齢層にも巾があり、小学校の生徒数にも増減がなく、初期に開発された地域西側には和風の建物、10～20年前に開発された東側は輸入住宅、などとまち並みにも幅がある。」といった説明があった。

電柱が各住戸の敷地内に設けられたエリアもあり、植栽されたフォルト等とともに、通り景観に配慮された歩車共存道路となっている。自然豊かで、北側の山から各地区の公園、公園から公園へは緑道でつながっており、綿密なコンセプトを持った当初の開発計画を基礎とする、自然と共に心地よく住めるまちなみとなっている。

現自治会長・事務局長他の尽力により運営に関しての基盤はできているが、やはり後継者問題があるという。毎年各地区の役員は総入れ替えとなるため、年度初めには建築協定についても基本からレクチャーする必要がある。これらを含め、今後の仕組みや支援については、「人」を巻き込む仕組みや建築協定などの制度の周知徹底などが望まれるのではないかと意見がでた。

B. 修徳 (2020. 12. 06) 地域の案内：修徳学区まちづくり委員会 荒川さん，加登さん

修徳学区まちづくり委員会委員長の荒川さんから，元学区のコミュニティにおける関係づくりの難しさ，立地の便利さから，マンション化，コインパーキング化，宿泊施設化等，社会の動向に大きく影響を受けている地域であること，また，景観づくり相談会を通じたコミュニティの再構築，成功事例づくりや資料作りの重要性などの話があった。

実際のまち歩きを通して参加者からは，学区境界や，幹線道路沿いと細街路沿いの景観の差の大きさ，全体的な統一感の無さ，気軽に立ち寄れる店舗の少なさ等の印象が語られた一方，取り組みの成果に対して，軒裏の色を黒っぽくすることの重要性，ボリュームより見える部分の重要性，景観づくりの視点に関する気づきが語られた。

これを推進するためには，施主・設計者・地域住民がまちへの想いをお互い理解し合い，残すべき建物は守りながらも，規制するのではなく，魅力を作っていく取り組みが必要であるとの指摘があった。そのためにも新しく入ってくる人との初期段階からのスムーズな関係づくりへの支援が必要との意見が出た。

C. 先斗町 (2020. 12. 13) 地域の案内：先斗町まちづくり協議会 神戸さん，西村さん

はじめに，先斗町まちづくり協議会の神戸さんより，近年の取り組みを中心にて説明があった。まち歩きでは，まち中の各所に隠れた歴史性を中心に語られ，先斗町の石畳ができたのは実は最近のことで，「人の印象は形作られる」という指摘などがあった。また電線地中化工事にかかわる困難さや先斗町における新しい工夫について，行政や関西電力との関係性を含めた話，家事をきっかけとした水道ホースの各戸連結の呼びかけやその景観への配慮の話などがあった。

これを受けて参加者からは，実現できない理由より，実現するための手段を考えていることへの感心，まちの姿は活動の結果であって，形だけを目指しているのではないこと，まちの本当の歴史，美しさを皆で共有すること，「魚」を通じた経済効率だけではないそれ以外の豊かさなどに関する気づきが語られた。

これを他地域にも広げるためには，きっかけ作りから行政の支援が望まれること，課題解決のための手段やルートに関する情報入手が容易になること，行政担当者には自身で判断し，地域の固有性に合わせた適切な情報を提供することが望まれる，といった意見が出た。

D. 三条 (2020. 12. 06) 地域の案内：京の三条まちづくり協議会 森本さん

京の三条まちづくり協議会の森本さんより，地域の歴史的背景，取り組みのきっかけ，地域景観づくり協議会，無電柱化ほか現状の取り組み等について，説明があった。3学区をはさんだ7町内にわたる協議会であること，従来からの住民，マンション等の新住民，テナント等，関係者が多様であること，また建築においても町家や洋風建築，現代建築が混在していることなど，三条に特徴的な課題がありながらも，「品格のあるまち」をキーワードにまちづくりを進めているとのことだった。

これに対し参加者からは，モノだけでなく，コトが多いのも，三条にはまちづくりに積極的なヒトがいるからなのだろうとの感想があった。これをさらに進めるためには，現在未利用だが潜在的なポテンシャルの高いスペースをさらに活用し，まちに開かれたイベントを開催し，無関心層を引き付ける取り組みが必要だという意見が出た。そのためにも，道路利用の自由度が増すことや，チャレンジングな取り組みに対する支援，継続的に行うための資金，備品の共有などに関する支援が，行政に求められるという意見が出た。

テーマ：地域ビジョンにもとづく景観まちづくり

1日目【セッション1】のフィールドワークとワークショップに参加された方の代表者による報告を皮切りに、4地域の方々、コーディネーター、専門家が、オンラインによる意見交換を行いました。

当日はまちセンを配信拠点とし、参加者傍聴者とも各自オンラインにて参加。以下の流れで議論を進めた。

- ①セッション1各地域代表者からの報告（45分程度）
- ②オンラインディスカッション（90分程度）
- ③まとめ（30分程度）

当日参加者

- ・コーディネーター：門内輝行氏，大島祥子氏
- ・京都市景観デザイン会議の建築の専門家：3名
- ・セッション1各地域代表者：4名
- ・各地域案内人の方々：5名
- ・その他のセッション1参加者及び一般傍聴者は視聴の上，チャットにて参加。

**■第1部 フィールドワーク及びワークショップに関する発表**

1. 桂坂

ア 報告：巽 容子さん

報告の内容は「各地区のフィールドワーク及びワークショップの発表資料」のとおり

イ 桂坂景観まちづくり協議会 長坂生人さん

開発当初の計画書により，自然豊かな街並み，石垣や公園整備など優れた計画があった。当時の入居者がそれを支持し入居した。当初の計画の評価をしつつ，それをどういう風に活かして発展させるかということを考えながら活動している。

2. 修徳学区

ア 報告：佐野美幸さん

報告の内容は「各地区のフィールドワーク及びワークショップの発表資料」のとおり

イ 修徳景観づくり協議会 荒川晃嗣さん

- ・内外への発信がこれから大切。
- ・まちづくりの組織作りがいろいろ進んでいるが，それを動かす人づくりが課題。

3. 先斗町

ア 報告：畝 博之さん

報告の内容は「各地区のフィールドワーク及びワークショップの発表資料」のとおり

イ 先斗町まちづくり協議会 神戸 啓さん

- ・ 地域のビジョンというと、難しくなるので意図的に考えないようにしている。あまり難しく考え過ぎず、どんなことが必要なのか、みんなが共有し続けることが大事。
- ・ 路地水族館の取り組み、皆が行ってみたいくなるような分かりやすいことも大事。都市の中の自然のありかたを考える。

4. 三条通

ア 報告：松本一平さん

報告の内容は「各地区のフィールドワーク及びワークショップの発表資料」のとおり

イ 京の三条まちづくり協議会 森本 浩行さん

- ・ 世界の範となる京都のシンボルストリートを掲げている。具体的にどういうものかはわからないが、それを考え続けている。
- ・ 「みちづくり」から「まちづくり」へ広がっていく。
- ・ 通りとして景観整備地区に指定されているので、みちを大切にしながら、そこに住もう、働く人、訪れる人たちにとって、より良いみちとは何なのか？より良いまちとは何なのか？考えている。
- ・ 無電柱化事業も進めているが、市の財政難で3年ほど延期される。その間、今後の道のあり方、空間の使い方を検討しまちづくりに結び付けていきたい。
- ・ 今年度、学生によるデザインワークショップを開催し、また住民によるみちからまちづくりをテーマにワークショップを開催した。

■第2部 オンラインディスカッション

(議論で出てきた主な論点)

□一般が関わりやすい環境づくり

【課題】

- ・ 地域住民，市民の参加度の低さ。
- ・ 景観まちづくり活動が活発になればなるほど，地域内でも専門化し，一般住民との隔たりが大きくなる。
- ・ 共有できる危機がある時には活動が活発になるが，平和な状況が続くと意識が薄れる。
- ・ 景観づくり協議に追われ，本来の楽しいまちづくり活動を行う余裕がない。
- ・ 不特定多数の利用に供し，行政が管理するようになった公共空間：自分（地域）のものでなくなる。
- ・ 既存の学区制が足かせに。統廃合により，引き込みたい子育て世代には元学区意識が育たない。

【対応】

- ・ サポートや勉強会の開催による未経験者でも担えるオープンな仕組み。
- ・ 祭りや清掃など，一般が関わりやすい環境づくり。
- ・ 無理のない生活と紐づいた範囲でのコミュニティづくり。
- ・ 第2世代のUターンの引き込み⇒故郷としての価値づくり。

- ・ わかりやすい、興味がわく、行ってみたくなる取組みの見える化。楽しくはしゃぐ。生け花や水族館。⇒手伝いたくなる。⇒徐々に、自然に、意識を共有。
- ・ 地域内住民、事業者だけでなく、対象地域のファンなども含めたみんなで考え、取り組む体制づくり。
- ・ 住民を楽しいことに引っ張り出し、自分のまちであることを意識づけしていく。
- ・ 公共空間、特に道、の使い方の自由度を上げる。
- ・ 大学、行政等との連携⇒既存イベントのプログラム化、新規イベントの開発。
- ・ みんなで考え、みんなで決める原則の維持。
- ・ 守るべき対象が明確になっている際には大きなトラブルなく継承できる。⇒モノだけでなく、生活文化も。
- ・ 小さなコミュニティ、適切なエリアの設定によって、環境の維持管理意識が働く。
- ・ 子供を中心に、家族を巻き込んでいく。

□地域ビジョンの周知

【課題】

- ・ 協議をしても、そもそも景観づくり計画書等の内容が、事業者等に理解されていない。
- ・ まちの価値はぼんやりしたイメージのため、共有が難しい。

【対応】

- ・ 構想段階のより早い時期に、地域の想い・取組みを伝えるため、景観づくりガイダンスを事前に開催。
- ・ 今後、成功事例等具体的なものを、地域内外への発信することが必要。⇒【理念】と【成果】の整理が必要。何をやっているのかが、誰にでもわかるように。
- ・ まちの価値(=住んでいる人が「いいまちやなあ」と素直に思い、他に自慢できること)を明らかにする。
- ・ 多様な考え、立場を前提に、共有できる「よりよいこと」を考え続けられる機会の提供。

□景観づくり協議での議論

【課題】

- ・ 一般住民からは景観とは次元の違う要望が多く出てくる。
- ・ マンション⇒コインパーキング⇒インバウンド⇒マンション・・・と社会情勢に大きく影響を受ける。

【対応】

- ・ 一律の景観規制ではできない細やかな検討、対応がなされている。
- ・ 行政には裁量のあるフレキシブルな対応が望まれる。

□景観政策について

【課題】

- ・ 行政からの制度の周知、啓発の不足。
- ・ 景観政策はボリュームが大きく、一般に理解するのが難しい。

【対応】

- ・ 景観政策を住民が観光客に説明できるくらい、シンプルに分かりやすく伝える必要。Ex.「京都の景観 た・ち・つ・て・と」
- ・ 京都全体の理念が必要。

□その他

- ・ 参照できる資料，事例。それに関する勉強会など。
- ・ 資金の捻出に課題。活動助成金や備品の購入などがあるといい。
- ・ 自治会館など，集える場の確保。


■第3部 議論のまとめ

- ・ 地域特有のポテンシャルを活かす。
- ・ 小さな手法（戦術），努力の積み重ねが，まち全体が豊かに変化していくことにつながる。
⇒タクティカルアーバニズム：世界のまちづくりのトレンド。
- ・ 景観には，総合的なまちづくりが必要。色・カタチだけではなく，人のくらし，アクティビティを含めた総合体が景観。つまり，景観規制だけでできるものではなく，総合行政として，分野横断的に広く取り組む必要がある。
- ・ 行政は，トップダウンとボトムアップをうまく組み合わせていく必要がある。全体のコントロールと，自分事として活動している人の支援。
- ・ システムプロセス主体，それぞれの組み合わせが重要。
- ・ 柔軟なスケール設定。活動のまとまりを， 이슈ーに合わせ，柔軟に設定することが必要。
- ・ 京都の生活スタイル，京都の文化というものは何なのか？を考え，見定めよう。京都が何を守り，展開していくのかを考える必要がある。
- ・ 主体の新陳代謝と多様性の確保。活動も人も新しいものと古いものを混ぜていくことが大事。
- ・ 地域がどう歩み，いまに至っているのか，歴史をたどることが大事。まちの歴史がアイデンティティ形成につながる。
- ・ まちづくりは，自分の生活環境の快適さにつながる，自分たちの生きていく世界をつくること。都市的生活様式は，手間のかかることを専門家に委託して成り立っているが，自分ごとにしていく必要がある。自分たちが生きることのデザイン＝まちづくり。
- ・ まちの価値，問題に気付くきっかけ作りを。日常にある価値が分かっていない。その発見プロセスを。⇒他者の視点を大事に。
- ・ 行政には，市民への分かりやすさの意識が必要。
- ・ 大事なことは，やはり自分ごととして景観問題を考えること。京都市では，地域エリアのデザインをどうやってつくるかというプロセスについての議論が始まっているところ。皆さんの動きが支援できるような体制を，一緒に考えていければと思う。

各地区のフィールドワーク及びワークショップの発表資料

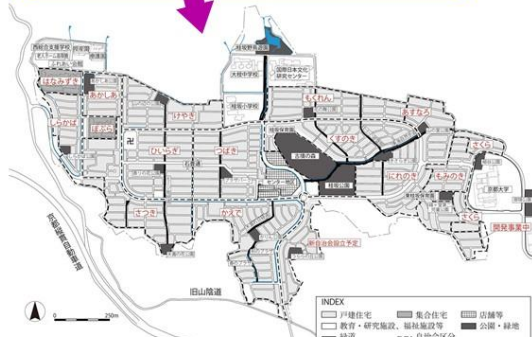
1. 桂坂 報告：巽 容子さん

桂坂



■ 桂坂の概要

- 位置
京都駅の西方、国道9号線から亀岡市に入る手前。京都大学桂キャンパスに隣接。
- 規模
およそ南北1km、東西1.6kmの範囲に、約3900世帯、12000人の人口。
- 特徴
1980年代から2011年まで開発が続いた緑の多い住宅地。「桂坂景観まちづくり協議会」が、建築協定と地位景観づくり協議会制度を利用して活動。



INDEX
□ 戸建住宅 □ 集合住宅 □ 店舗等
□ 教育・研究施設、福祉施設等 □ 公園・緑地
— 線道 - - - 自治会区分

1

桂坂

■ 桂坂のまちづくりのポイント

1. 優れたコンセプトによる開発業者の設定
美しく居心地のよい芸術作品を作る心意気
緑の川・鳥の道
2. 「いい街をつくりたい」との住民の想いと活動
コンセプトに共感した入居者
3. 建築協定の存在
協定満期終了後も住民が自主的維持に尽力
建築協定：壁面の後退、2/10の植栽の設置、道路の植栽帯の変更禁止、石の造形(擁壁)の維持等も

2



壁面のセットバック



土面の公園



和風壁の遊歩道



米国風の区画

フォルト



遊歩道



石の造形（擁壁）

遊歩道



桂坂

■ 地域の目指しているもの、そのための工夫って？

1. 自然豊かな景観と住み心地の良さを目指す

「自然環境や歴史的地形・事物と調和した郊外型住宅地としての良好な景観と健康的な住環境を維持し、さらに発展を目指します。」

2. 自主的な組織運営

16の自治会、16の建築協定部会、景観まちづくり部会

- 自治会と建築協定委員会は連動して毎年総入れ替え
- 知り触れて親しみを持ってもらうことで守る機運を高める活動

■自分の地域で景観まちづくりに取り組むとしたら、どのようなビジョンが描ける？

1. FWLして、率直にどう感じたか？

- リーダーシップや、住民が自分達の価値として誇りを持って長年維持されている実行力が素晴らしい。自然豊かなので維持管理が大変そう。

2. 自分の地域で取り組むには

- 地域のデザインコンセプトを理解することが大事だ。
- 住民の属性が近いと地域を代表する考えを集約しやすそう。
- 「子供を育てるのによい環境だから」「自然に親しんで生活したい」とのUターン組がいることで、緩やかでも継続的に地域が活性化される。
- 在る事が当然と思っている現在の価値を未来に継続するために次世代のリーダーを育てることが大事
- 活動資金の捻出が疑問(桂坂では自治連合会費とコンクール賞金)

■地域のみんながビジョンを共有するために地域に必要なこと、ひと、モノって何だろう？

- 市の政策として地域ビジョンを持つことが打ち出されていることを広く周知してもらいたい。
- 桂坂は基本的に毎年自治会長と建築協定委員を総入れ替えすることで教育機会が巡回し、協力しあう。自治連合会による自治会長のサポートや建築協定委員の勉強会などが定期的な実施され、未経験者でも担えるオープンなしくみがある。
- 地蔵盆の代わりに各自治会で統一夏祭りを行い、年2回の一斉清掃や地元のイベントでコミュニティをまとめている。

■どのような仕組み、支援があれば 取組みやすいか？

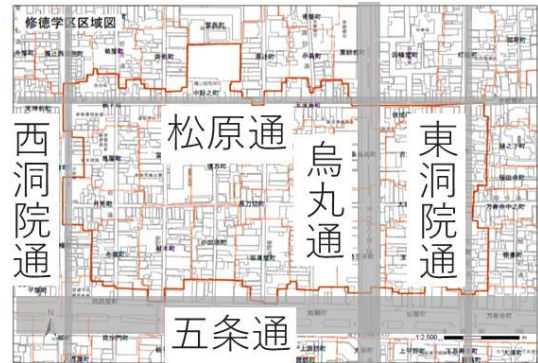
- まちづくりの資料、判りやすいお手本や理想像
- 市民新聞などの媒体や自治連合会などの地域の既存組織を通して、制度の周知や勉強会を設定してほしい。
- 金儲けでなく、集える場がほしい。地域自治会館の活用。
- 住民の団結のためのコミュニティ作りの支援。公園掃除などの生活の雑事を共同で分担する活動などの支援。
- 若い世代の暮らし易さや若い住民の導入を地域活性化ととらえて支援する仕組み。
- 大手仲介業者に建築協定区域や地域景観づくり協定地区であることを伝えているが、京都市の景観制度や建築協定の周知が足りない。協定に強い力がない。

■まとめ

- 「桂坂は自然と歴史文化が調和する子育てにいい街」とのブランド価値が形成されている
- 住民による自主的な全域の建築協定の継続がポイント
- 第二世代のUターンが始まっている
⇒故郷の地域価値が認知され、未来に繋がる希望
- 行政による京都市景観制度の一層の周知や啓発に期待

修徳

修徳とは



- 修徳小学校の元学区
- 自治連合会内「まちづくり委員会」が主体
- 約30年前から活動

修徳



修徳

修徳での取り組み

ガイダンスと相談会の**2段階**で個別対応

景観づくりガイダンス



月1回、まちづくり委員会の定例会議で実施
構想段階で町の思いや取り組みを知ってもらう

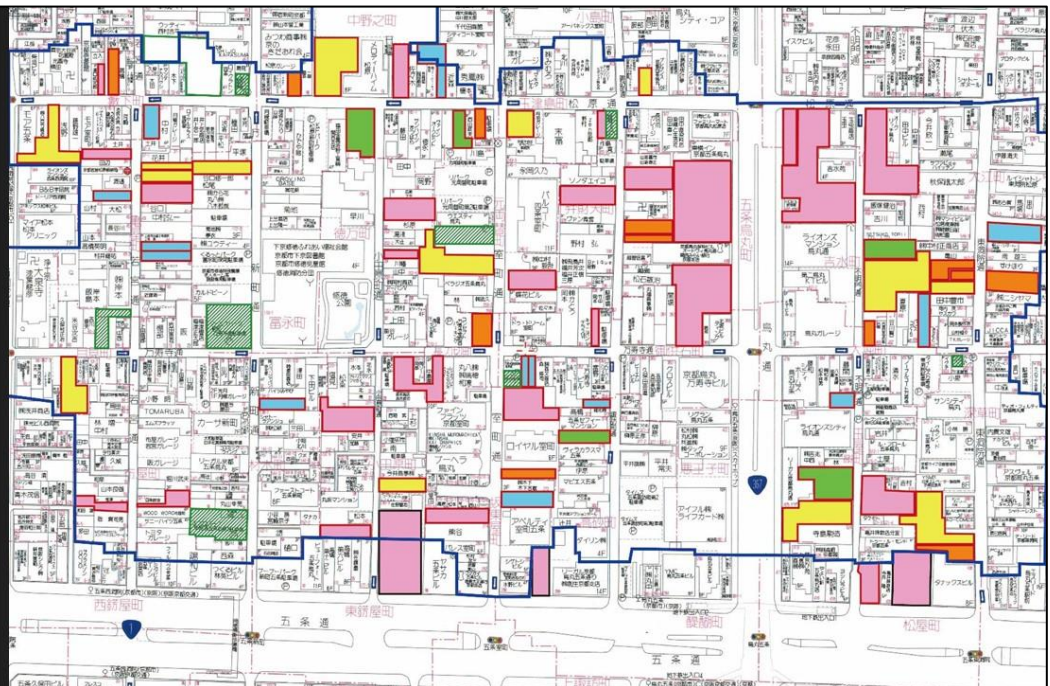
景観づくり相談会



案件ごとに個別に開催
具体的な意見交換の場

建築に関わる申請手続き

修徳



修徳

景観づくり相談会の事例



町家

共同住宅

戸建住宅

修徳

景観づくり相談会の事例



当初の計画

実際

修徳

実際に町を歩いて

景観や、実際に住んでいく中で生じうる問題について

個々に細やかな対応がされていることを実感

一方、

修徳全体としてはあまり統一感を感じられない

- 背の低い建物（町家など）と背の高い建物が混在
- 大通り（烏丸通）と細い通りでは求められる景観が違う
→景観をひとつに揃えるのは難しい

修徳

議論のまとめ

- 目的は「まちの価値を高めること」
- 規制ではなく、自ら合わせたくなるのが理想
- 具体的なビジョンがないと難しい



- 成功事例を収集・記録し内外に発信する
- 建築主等（東京・海外である場合も多い）が早期に情報にアクセスできるようにする

修徳

情報へのアクセスについて

通りの入口に式目を立てる

→グローバルなアクセスには不十分

→ネットで発信

現在は解体届出制だが、近年は土地の解体渡しが多い

→土地を購入する前にひっかかる仕組み


→不動産屋の重要事項説明など？

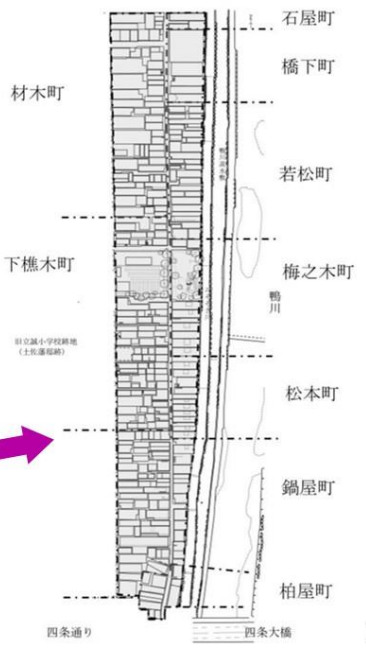
3. 先斗町 報告：畝 博之さん

先斗町

●位置
三条通の一本南の通り～四条通までの、先斗町を挟む鴨川から木屋町までの地域。

●特徴
9つの町にかかる南北約500mの区域。京都を代表する繁華街で、伝統的花街でもあり、暮らしの場でもある。先斗町まちづくり協議会が主体となり、地域景観づくり協議会制度を活用。





注) 本資料中の写真の一部は先斗町まちづくり協議会 facebookからいただいております

先斗町の概要


1

先斗町まちあるき


いくつもの共感がありました


先斗町

先斗町まちづくり協議会 神戸事務局長にご案内いただき先斗町のまちづくりの取り組みを見学。




意見出し






なるほど、知らなかった、面白い。様々な驚きがありました。

狭いところに入っていくと、そこには先斗町の歴史の痕跡がありました。➡





背広にねじり鉢巻きの神戸事務局長 熱い思いを感じました

「へー」と言いながら 2

先斗町のまちづくりは？



2012年



2018年



2020年

先斗町



先斗町 このまちに、花



空間まちづくり 路地水族館

50年かかることを10年で

うまくいっている！

先斗町まちづくり協議会の成果！

観光客目線ですが、「素晴らしい」「面白い」「興味がわく」「行ってみたい」と感じます。

うまくいっている理由を考える

1. 情熱を持った推進者が複数おられる。

- 先斗町の人が地元で活動している。
- まちの歴史をよく調べている。

ひと



ねじり鉢巻き



江戸時代の町割り図
よく調査されています。

2. わかりやすく見える活動をしている。

- ⇒わかりやすいから参画しやすい。
- 行けば見られる。

活動



毎週のそうじ



地上トランスを掃除

3. 積極的に情報発信している。

- ⇒面白い。興味がわく。
- 手伝える。

情報



毎月のまちあるき会

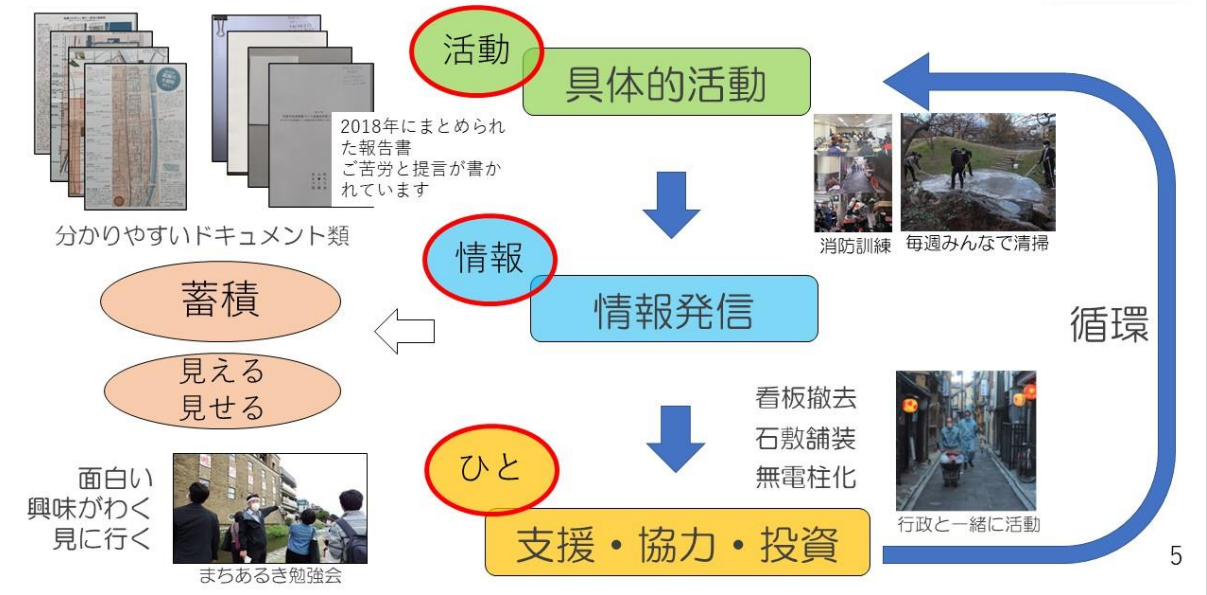


放水ホースの
点検



サイクルを回して成果となって表れている

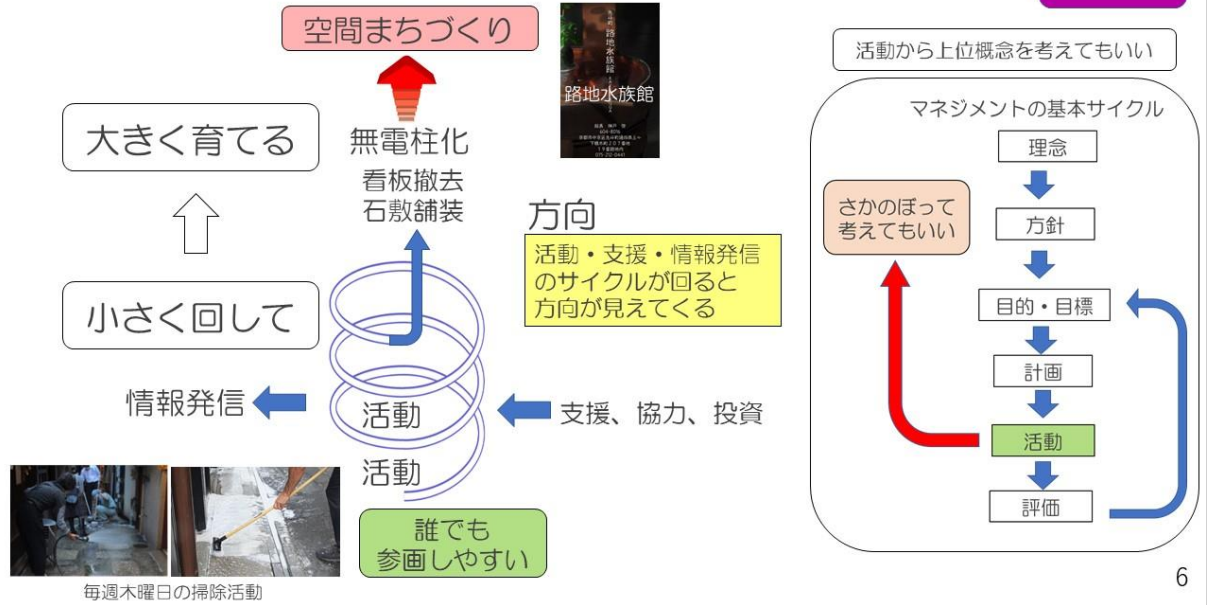
先斗町



小さく回して大きく育てる

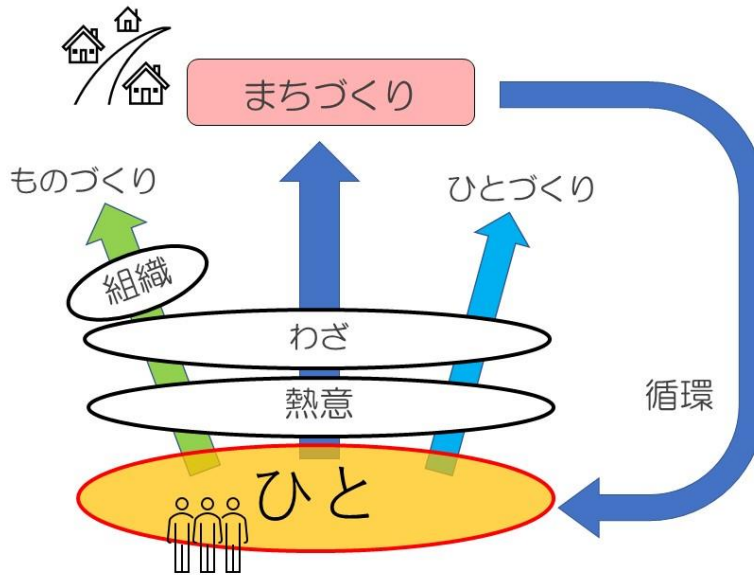
事務局長から教わったこと

先斗町



感じたこと・・・根っこは同じですね。・・・ひと

先斗町



まちづくりも
根っこは

ひと

なんですね。



自分にもできるこ
とがありそう。

7

行政による景観政策に必要と思うこと

先斗町

先斗町うまいっていますね
(問題もあるとは思いますが)

京都市の条例、方針、計画はできています
日本で最高レベル



行政の方も協議会に参画されています

景観エリアマネージャー、文化財マネージャー
とも制限なくオープンに門戸が開かれています。

京都はとてもオープンなまちだと感じています。

でも、景観まちづくりがだんだん難解になって
特別な人たちの仕事
になってきてはいませんか。



これから必要なことは
「政策をシンプルに、わかりやすく」
住民の方々が観光客に、京都市の政策を自慢げに
説明できたら素敵。

そして

一緒に掃除して
市役所で魚を飼いましょう

・公私問わずもっと一緒に

熱意ある行政担当者に裁量を

・フレキシブルな制度運用

そう思いました。

8

三条

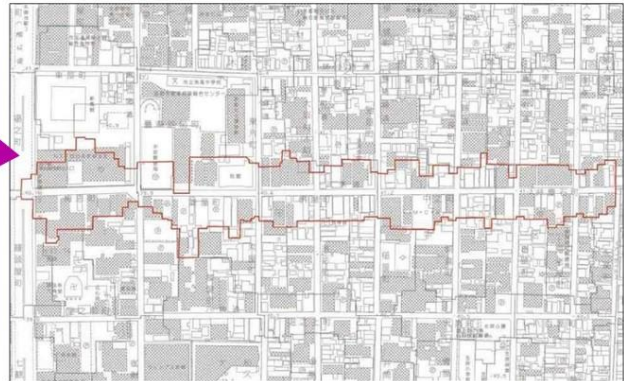
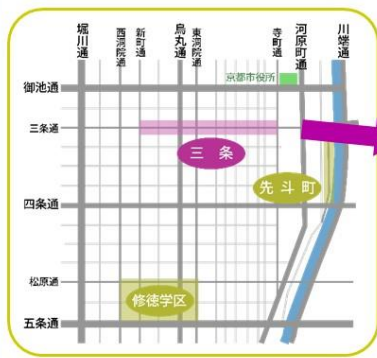
■三条の概要

●位置

三条通の、東は寺町通～西は新町通に挟まれた地域。

●特徴

町家、近代洋風建築、現代建築が混在する、3つの元学区にかかる7町内が基礎。「京の三条まちづくり協議会」が主体となり、地域景観づくり協議会制度を活用。



三条

ワークショップ ②ウイングス京都



【参加者】 5人

【内容】

- ・三条通りの概要説明
- ・景観まちづくりの取り組み
- ・実際に三条通りのまちあるき
- ・ワークショップ

テーマ

- ①まちあるきをして素直にどう感じたか
- ②地域の目指しているもの、そのための工夫とは？
- ③自分の地域で景観まちづくりに取り組むとしたら、どのようなビジョンがある？
- ④地域みんながビジョンを共有するために地域に必要なこと、ひと、モノって何だろう？
- ⑤どのような仕組み、支援があれば取り組みやすいか？

三条

①まちあるきをして素直にどう感じたか

- ・魅力的な建築が多い
- ・広告をどう制限する？
- ・空きテナント、駐車場、
- ・二階部分の利用ポテンシャル



②地域の目指しているもの、そのための工夫とは？

- ・事前協議
- ・通りを盛り上げる共通認識

③自分の地域で景観まちづくりに取り組むとしたら、どのようなビジョンがある？

- ・都市軸を中心とした景観まちづくり

三条

④地域のみんながビジョンを共有するために地域に必要なこと、ひと、モノって何だろう？

⇒ワークショップ

- ・空きテナント
 - ・店舗前のスペース
 - ・二階部分
- を生かしたワークショップの実施

特に通りの特性を生かす



三条

④地域のみんながビジョンを共有するために地域に必要なこと、ひと、モノって何だろう？

⇒無関心層も引き付けることのできる通り全体で行うイベント

- ・ファッションストリートイベント
- ・アートフェス
- ・ライトアップイベント

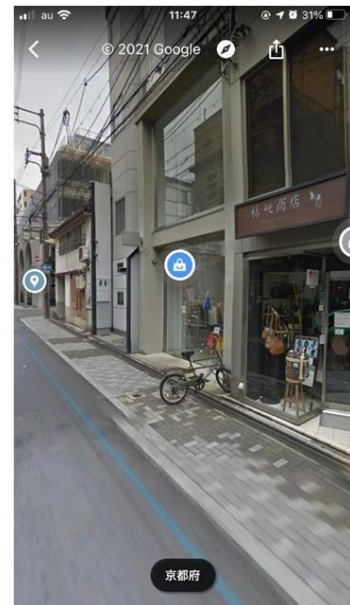
道の使い方の自由度を上げる
規制と緩和が必要



三条

⑤どのような仕組み、支援があれば
取り組みやすいか？

- ・道路の使用を自由にするための補助金
- ・継続して行うための資金、備品の共有
- ・違反駐輪に対する具体的な規制



(google mapより)

三条

⑤どのような仕組み、支援があれば
取り組みやすいか？

- ・ 連携体制
大学、市と連携
まちづくり協議会サポート
- ・ 持続的運営
既存イベントのプログラム化
新規イベントの開発

三条

まとめ①

- ・ 歴史的建築物、近代建築、現代建築が
共存する「通り」のポテンシャルを生かす
景観まちづくり
- ・ 混在する価値観をまとめて、ビジョンを
共有する必要性

三条

まとめ②

- ・ 具体的には
ワークショップ、イベントなどで
意識の共有
- ・ 連携体制の強化、持続的運営
規制や緩和に対する補助金